幸若かわら版

幸若舞の里づくり会
事務局　橋本守行
電話090-7746-8689

第　３９号
令和　４年１１月　１日

秋季研修旅行富山訪問

桃井直常の墓をバックに記念写真

安部住職の説明を聞く会員

かねてからの懸案で、昨年コロナのため中止した富山市の興国寺参拝を九名の会員で実施しました。興国寺は興国六年（一三四五）に越中の守護職・桃井直常（ただつね・系図によれば幸若丸の祖父に当たる）が創建した一族の菩提寺である。当寺は、臨済宗に属する禅寺で、「幸若」のみならず、戦国武将・斎藤龍興や足利十代将軍・足利義材のゆかりの寺としても知られる。真宗王国・富山にあって、これまで寺を維持してきた。

興国寺正面

また午後からは、富山駅北口に最近整備された富岩運河環水公園の散策や同地内の富山県立美術館の美術鑑賞のほか、富岩運河のクルーズ船に乗船し、中島閘門における約２メートルの水位差調整を体験しました。この日は朝から終日天候に恵まれた楽しい一日でした。

富岩運河環水公園

中島閘門

例会は隔月（偶数月）第2金曜日です

劔神社中秋観月祭で幸若舞上演

布須磨廼宮雅楽

迦陵頻

去る九月十日、織田劔神社で中秋観月祭が開かれました。。神事の後、地元陶の谷の雅楽グループ「布須磨廼宮（ふすまのみや）雅楽会」の演奏と舞楽「迦陵頻（かりょうびん）」とともに当会の幸若舞「左内」が奉納されました。あいにく、中秋の名月は雲間に見える程度でしたが、神社境内は幽玄の雰囲気に包まれました。月は隈なきものをみるかは…

白山神社秋季例大祭で幸若舞上演

去る九月一九日に実施された白山神社の秋季例大祭に前回に引き続き幸若舞も参加しました。

西田中区民に新曲「左内」を披露し、喝采を浴びました。

現代幸若舞グループでは団員減少に悩んでおります。お子さんやお孫さんの、情操教育のためにも伝統芸能に触れてみませんか。

ご相談・ご参加については、松田会員までご連絡ください。

090-6275-2770

現代幸若舞団員募集！

幸若舞PRペナントを新デザインに交換

これまで西田中本通りの街灯を利用して、幸若舞発祥地をＰＲする小旗を掲げれれておりましたが、設置者の西田中区から、年月を経過して傷みが激しいことや、管理が十分にすることが困難であるとして、当会への移管打診がありました。

会長以下が検討した結果、この際デザインを一新するとともに、メンテナンスフリーの取り付け方法などを改良することにいたしました。現在左記のようなデザインを考慮中ですが、会員の皆様のご意見・アイデアを募っております。

従来のもの

各種イベントなど参加者募集中!

1　朝倉氏資料館および遺跡見学

日　時：１１月２５日（金）１２時役場駐車場集合

幸若歴史講座・青木講師（元館長）が案内・説明します。

観覧料等：３６０円／人（７０歳以上）

申し込み：１１月１８日までに橋本会員または藤川会員まで

090-7746-8689　　090-2127-4131

2　令和４年度忘年会

日時場所：１２月１１日（日）　午前１０時～　朝寿殿

会　　費：１０００円／人

当日幸若紙芝居続編試作品の披露を行います。

申し込み：１２月４日までに橋本会員または青山会員まで

090-7746-8689　　090-1630-1218

3　福岡県みやま市大頭流幸若舞視察見学予告

日時：令和５年１月１９日～２１日

負担金：　約３万円／人

詳細は次号（第４０号）に掲載します

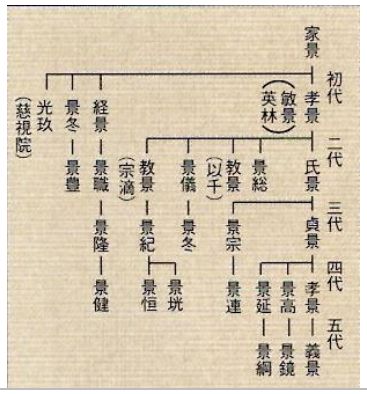
幸若歴史愛好会は毎月第4かまたは最終金曜日開催です

幸若歴史愛好会開催

９月23日
10月28日

戦国大名朝倉氏五代の文化と興亡

その1



青木豊昭講師によるみだしの勉強会が９月２３日と１０月２８日の両日会員１７、１２名の参加を得て町図書館研修室で開催されました。

青木先生の説明と質疑応答の要旨は次のとおりである。

①朝倉氏の祖先は、但馬国の有力御家人であったが、１３３７年斯波高経の重臣として、越前に入国した。

②その後、応仁の乱など一族子孫は越前守護職となり、一乗谷の地に本拠を固めた。

③戦国の浮沈のなかで、朝倉氏の地位は上昇し、五代義景は最高の栄華を楽しんだ。その後、一向一揆、織田信長、浅井長政らとの合従連衡を経、１５７３年の刀禰坂の合戦で大敗自害して朝倉５代１０３年は消滅した。

④戦国乱世を統一する人物として、朝倉義景・武田信玄・織田信長の３人が挙げられている。「多門院日記」

⑤朝倉氏は、戦国の世においても、越前の豊かな生産力を背景として、京文化との交流などにより文化面での興隆も図った。また、家訓「朝倉孝景条々」を残し、家臣秩序の維持を図った。

⑥このようなことから、越前朝倉の文化は、豊後大友氏・周防大内氏・駿河今川氏と並んで、戦国四大地方文化の一つとなった。

⑦１５６６年義景は、のちの将軍・足利義昭を一乗谷に迎えて十七献の宴をはったが、朝倉義景およびその家臣たちが手猿楽（てさるがく・セミプロ）の舞を披露した。その後、義昭の所望に応じて義景がさらに舞を舞ったが、その舞が幸若舞でないかというのが、青木説である。

幸若舞人形衣裳　リニューアル検討中

約３０年近く前に製作され、町図書館に展示されている幸若舞人形は、ほこりをかぶり、衣裳も色あせて傷みが激しくなっており、かえってイメージダウンであるとの意見もf出されています。このため、松田会員をはじめとして女子会員を中心に改修デザインの検討が進行中です。

しかし、当時の衣裳の直接的な資料はなく、以後の武士の礼装などを参考に想像していますが、苦慮しているところです。会員の皆様のアイデア・ご意見をお寄せください。